【職域】国土交通省 国土地理院 基本図情報部 くにかぜ撮影チーム
《空から日本を見つめ続けて６０年　刻々と変化する国土の姿を記録》

名称・所在地・代表者・沿革等	組織の概要等
国土交通省　国土地理院　基本図情報部 くにかぜ撮影チーム（画像調査課） 茨城県つくば市北郷１番 基本図情報部画像調査課長　　菅野（すがの）　秀秋（ひであき） （画像調査課長以下　　6名） 昭和35年　測量用航空機「くにかぜ」就航 昭和39年　写真測量による本格的な2万5千分1地形図の全国整備を開始 昭和58年　後継機「くにかぜⅡ」就航 平成 2年　雲仙普賢岳噴火緊急撮影 平成 7年　兵庫県南部地震（阪神・淡路大震災）緊急撮影 平成12年　有珠山噴火、三宅島噴火　緊急撮影 平成16年　新潟県中越地震緊急撮影 平成22年　後継機「くにかぜⅢ」就航 平成23年　東北地方太平洋沖地震（東日本大震災）緊急撮影 平成26年　御嶽山噴火緊急撮影 平成27年　関東・東北豪雨緊急撮影 平成28年　熊本地震緊急撮影 平成30年　7月豪雨（西日本豪雨）緊急撮影 令和元年　東日本台風緊急撮影 令和 2年　火山観測用電波観測機器を常設化 【緊急撮影は主要なもののみ掲載】	国土地理院では、100年以上にわたって、我が国の地形、交通や建物などの基本的な地理空間情報を国土全域についてくまなく整備してきた。2万5千分1地形図に代表されるこれら「基本図」と呼ばれる地図は、民間も含めた我が国の全ての地図の基礎となっている。 この「基本図」作成には空中写真の撮影が不可欠であり、「くにかぜ撮影チーム」は歴代の測量用航空機「くにかぜ」を使用して、60年間にわたり撮影を実施してきた。 同時に、地震や豪雨災害などで被災した地域の被災状況をいち早く撮影し、関係機関へ被災状況の詳細を提供するなど災害対応にも大きな力を発揮している。

顕彰理由

国土地理院は、測量用航空機「くにかぜ」により、急峻な山奥や絶海の離島など通常は到達困難な場所も含め、60年にわたり国土を撮影し続け、我が国の主権を示す根拠となる国土全域の地図作成を効率的かつ高精度に行ってきた。また、自然災害が多発する我が国において、空中写真撮影により被災状況を把握し、関係機関に提供することを通じて、復旧・復興にも「くにかぜ」は貢献してきた。くにかぜ撮影チームは表舞台に出ることは少ないものの、高度な専門知識に基づき時に過酷な状況の下で活動し、国民生活の向上のために精励し、公務への信頼を高めることに寄与してきた。

受賞理由

1　職務の内容・重要性

国土地理院の「くにかぜ撮影チーム」は、昭和35年の測量用航空機「くにかぜ」導入以来、現在の「くにかぜⅢ」に至る60年間に渡り、写真測量に関する高度な専門知識に基づき空中写真撮影を実施してきた。

空中写真は、民間も含めた我が国で作成される全ての地図の元である基本図の作成・更新に必要不可欠な情報である。我が国の国土を正確に表現している基本図は、各種社会資本整備の基礎であることに加え、特に離島の基本図は排他的経済水域の範囲を対外的に明示する根拠として極めて重要である。一方で、長期間継続的に撮影した空中写真の蓄積は、国土の変遷を示す貴重なデータとなり、自宅周辺の土地利用変化の把握を可能にするなど、広く国民一般にも親しまれている。空中写真はまた、災害発生時には被害状況の把握や応急復旧、復興のために重要かつ不可欠な資料である。

「くにかぜ撮影チーム」は、大規模災害発生時には、空中写真の緊急撮影を実施している。これまで、阪神・淡路大震災、東日本大震災、熊本地震などの震災や、平成30年7月豪雨、令和元年東日本台風などの水害を始め、毎年発生する災害に迅速に対応し、現地の被災状況を記録し、関係機関に提供してきた。また、火山噴火時には、航空機に搭載した噴煙下の状況を把握できるレーダー機器を用いて火山の緊急観測を実施しており、平成23年及び29年の霧島岳（新燃岳）や平成26年の御嶽山などの噴火時には、火口周辺の地形変化などを捉え、関係機関に提供してきた。これらの空中写真等は被災状況の把握、応急対策等に有効活用されている。

2　特殊な勤務環境

「くにかぜ撮影チーム」は、平常時、災害発生時を問わず、北海道から沖縄まで全国を飛び回って撮影を実施している。災害発生時には、被災地の空中写真等を関係機関に速やかに提供するため、撮影にあたっての計画作成、関係機関との運航調整、撮影実施、撮影後の画像処理に至るまでの一連の工程を、昼夜問わず実施している。

一度離陸して撮影に向かうと、長い場合で5時間以上地上に降りられないため、搭乗者は常に体調管理が求められる。また、撮影は高度約3,000m超から実施する事が多く、空気が薄い状況下で酸素マスクを着用して臨んだり、時にはその小さな機体が気流で大きく揺れる中で連続して撮影を遂行しなければならなかったりと、勤務環境は過酷極まりない。これらは危険や困難を伴い、忍耐が必要な作業であるが、無事に遂行した業務の結果は、我が国の社会資本整備や国土の管理・保全、国民の安全・安心に貢献しているという誇りと何事にも変えられない充実感が得られるものである。

3　公務の信頼の確保・向上

国家機関が国土の姿を絶えず正確に示し続けることは統治行為そのものである。くにかぜ導入後60年間に渡る職員のたゆまぬ努力や多くの精神的・肉体的負担を伴う勤務を通じ、国土の管理・保全、国民生活の向上に必要不可欠である正確な基本図を提供することや、災害時に被災状況を示す空中写真を迅速に撮影し提供することは強い使命感により確実に遂行されており、公務の信頼性の確保と向上に寄与している。